

アグリメッセージ

発行 伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課

橋本市市脇4-5-8 TEL 0736-33-4930

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/130300/90/93/index.htm>



新規就農者向け現地研修会を開催

農業者の高齢化が進む中で、地域農業を持続するためには、新たな農業の担い手の確保が重要です。

農業水産振興課では、農業の担い手として期待される新規就農者向けの研修会を開催しています。新規就農者の栽培技術や経営力の向上を図るとともに、同世代の仲間や先輩農業者と交流できるよう、8月21日に果樹、12月14日に農業機械をテーマに研修会を開催しました。果樹の現地研修会ではJ A紀北かわかみ甘熟富有柿部会の部会長中谷裕一氏が講師となり、中谷氏の管理方法や経営、甘熟富有柿のブランド化について教えていただきました。参加者からは中谷氏の取組みへの質問や相談があり、ブランド化へ発展できるようなこだわりについて意見交換を行いました。農業機械の研修会では、メーカー4社が持参したトラクターや刈払い機、動噴等の実物を見ながら、農作業事故の防止対策やメンテナンスについて学びました。今回の研修会では、若手農業者同士の情報交換ができただけでなく、先輩農業者やメーカーと繋がりを持つ良い機会となりました。

今後も伊都地方の農業を担う若手農業者を育成するため、研修会や交流会を開催するだけでなく、新規就農に関する事業の活用など新規就農支援に力を入れていきたいと考えております。より多くの新規就農者が地域に定着できるよう、関係機関と連携した支援体制を構築したいと考えておりますので、地域の先輩農業者の方々のご協力、ご支援をよろしくお願いします。

省力化と新品種導入による柿産地の振興（重点プロジェクト）

近年、柿の生産は単価の低迷が続いているために、後継者の不足、生産者の高齢化が進んで労働力が不足し、放棄園が増加するといった様々な課題を抱えています。そこで、農業水産振興課では重点プロジェクト「省力化と新品種導入による柿産地の振興」（H30～32年度課題）としていくつかの課題に取り組んでいますのでご紹介します。

・摘蕾作業の省力化の推進

柿の生産作業において摘蕾は集中的に労力が必要になる作業の一つです。そこで、摘蕾省力化のために平成28年度から「刀根早生」栽培園地において、結果母枝切り返し技術（以下先刈り）の実証を行っています。本年度は、摘蕾時間は約15%、摘果時間は約40%軽減され（図1）、収量と1果重には差がみられませんでした（図省略）。

当課では今後、先刈りの普及を推進すると共に、連年処理を実施した際の影響について継続して調査を行っていきます。

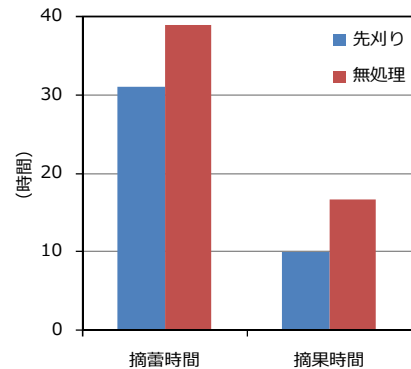


図1 先刈り処理が10aあたりの着果管理時間※に及ぼす影響

※1樹あたり結果母枝200本(内約100本先刈り),10aあたり20樹定植として算出した。

・新品種「紀州てまり」導入推進

かき・もも研究所で「早秋」に「太秋」を掛け合わせて10月中下旬に収穫可能な甘柿「紀州てまり」が育成され、苗木が本年より供給開始されます（写真1）。本品種は「太秋」特有の条紋の発生がみられず、果皮が赤橙色で外観が優れるのが特徴です。良食味な果実の安定的な生産が期待されますが、新品種であるため、現地適応性などは十分に検討されていません。

そこで、「紀州てまり」の現地適応性を調査するために、園地条件の異なる5園地において「刀根早生」に高継ぎを実施しました。今後、生育状況等を確認し、試食検討会も開催して、情報提供していきます。

また、「紀州てまり」のブランドや生産する農業者の利益を守るために、生産者の登録制度が設けられました。詳細につきましては、当課及び県庁果樹園芸課までお問い合わせください。



写真1 収穫期の「紀州てまり」

・省力品目の推進

放棄地園の活用を図るために、柿葉等の利用による経営モデルの作成を検討しています。本年度から、7年間放棄されていた「刀根早生」園地において、柿の葉寿司への利用を目的に柿葉収穫用の樹への再生について検討を始めました。2月に樹再生のためにチェーンソーを用いて大きく切り込み、4月に陰芽からの発芽を確認しました。しかし、陰芽から発芽した新梢の葉は十分に大きくなり、柿の葉寿司用の規格に合う葉は1樹あたり約120枚しか収穫できませんでした。また、うどんこ病が多発し約40%の葉での発病を確認しました。次年度は、柿葉用の防除の検討や収量の推移について調査を実施していきます。



写真2 放棄樹からの新梢発生

伝統野菜「はたごんぼ」の栽培の現状と取組について

「はたごんぼ」は、江戸時代から橋本市西畑地区において栽培されてきた直径5cm、長さ1mにもなるごぼうです。

近年は自家用に細々と栽培される状況となっていました。10年ほど前から西畑地区の方々が復活に取組み、現在では地域の伝統野菜として栽培されています。

また、平成26年度には農事組合法人くにぎ広場・農産物直売交流施設組合が生産する「幻のはたごんぼ」は和歌山県優良県産品推奨制度（プレミアム和歌山）に選定され、審査員特別賞を受賞しています。

伊都振興局では「はたごんぼ」の安定生産を目指すために、マルチ敷設による除草作業の省力化と機械収穫に適した品種を選定するための調査を行っています。



収穫機による収穫作業



はたごんぼ

「農業経営の発展を応援します！」わかやま農業経営サポートセンターについて

農業経営の発展を目指す農業者の経営相談に応じるため、県と関係機関により農業経営サポートセンターを設置しています。（地域相談窓口：振興局農業水産振興課）

農業経営サポートセンターでは、6次産業化、法人化、販売拡大など、農業者の相談ニーズに応じて「専門アドバイザー」を派遣しますので、お気軽に農業水産振興課までご相談ください。

○こんな時にご活用ください。

6次産業化

経営規模の
拡大

法人化

販路の拡大

- ・新たな加工品開発など6次産業化に取り組みたい。
- ・雇用したいが就業規則や社会保険が分からない。
- ・法人化により規模拡大や信用力強化を目指したい。
- ・後継者がいないので誰かに後を継いで欲しい。
- ・子供に経営移譲したいが税制面について相談したい。 など

和歌山県グリーンサポートを活用してみませんか？

県では、各地で地域の特色を生かし、頑張っている農業者の季節的な雇用労力を安定的に確保するために、グリーンサポートホームページを開設し、季節的雇用の求人情報を発信しています。

求人情報掲載料は無料です。詳細については「和歌山県グリーンサポート」で検索いただくか、振興局農業水産振興課までお問い合わせください。

和歌山県グリーンサポート

検索

農地を貸したい！借りたい！こんな方を募集しています。

近く引退や規模縮小で農地を「貸したい」と考えている方、新規就農や規模拡大で農地を「借りたい」と考えている方はいませんか。

貸したい方と借りたい方の間に和歌山県農業公社が入り、貸借契約の期間が終了した後の農地は、貸し手の方のお手元に戻りますので安心です。

相談や活用される方は年々増えていきますので、ぜひご相談ください。【随時受付中】

農地を貸したい方

- 農業振興地域内の農地
- 耕作放棄地等でない農地
- 借りてもらえる可能性が高い農地

農地を借りたい農業者

- 規模拡大したい担い手農家
- 新規就農者(新規参入者)
- ※家庭菜園や市民農園は対象外

お問い合わせ先は、JA営農課、各市町農業委員会、振興局農業水産振興課まで

★★★ 参加者募集 ★★★

平成31年度 農業技術講習会の受講者募集について(ご案内)

【募集内容】

- 定員：各コース25名。
- 受付期間：平成31年2月28日(木)まで。申込者が定員を超えた場合、先着受付順。
- 就農意欲があり、基礎技術を習得したい方で、退職されて数年以内、又は新規に就農希望する方を優先します。
- 受講は複数コースの申し込み可能。

□果樹(柿基礎)コース

日程	内容
4月下旬	摘蕾、人工受粉、病害虫防除、管内の農業概要、実習(摘蕾)、刈払機安全講習
5月中旬	環状はく皮、GA処理、農薬安全使用、実習(枝剥皮、枝管理)
6月中旬	摘果、主な品種、実習(摘果、枝管理)
8月下旬	収穫前管理、果実軟化対策、樹上脱渋、施肥、実習(樹脱)
11月下旬	剪定及び土づくり、休眠期防除、剪定講習

□果樹(柿専門)コース

日程	内容
7月下旬	柿の生理生態、施肥、病害虫診断
12月下旬	せん定実習(「刀根早生」「富有」)
3月中旬	接ぎ木実習

□野菜コース

日程	内容
4月中旬	野菜栽培の基礎(農薬、土壌、年間作付体系)、管内の農業概要、刈払機安全講習、夏秋野菜の栽培管理(トマト、ナス、キュウリ、ピーマン等)
7月上旬	秋冬野菜の栽培管理(キャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、カリフラワー、ホウレンソウ等)、先進農家見学
8月上旬	秋冬野菜の栽培管理(タネネギ、ダイコン、ジャガイモ、サトイモ、エントウ等)、実習(野菜の育苗)

□花コース

日程	内容
6月中旬	花栽培の基礎(農薬、土壌、年間作付体系)、ストック、ハボタン等の栽培管理、実習(花の育苗)、先進農家見学
12月中旬	コギク、アスター等の栽培管理、先進農家見学

○申し込み・お問合せ

伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課

TEL 0736-33-4930(直通)、FAX 0736-33-4931